

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月 日

都道府県知事 殿

提出者

住 所 兵庫県加古郡播磨町新島5番
氏 名 日本山村硝子株式会社 播磨工場
工場長 渡辺 泰弘
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 (079) 435-2051

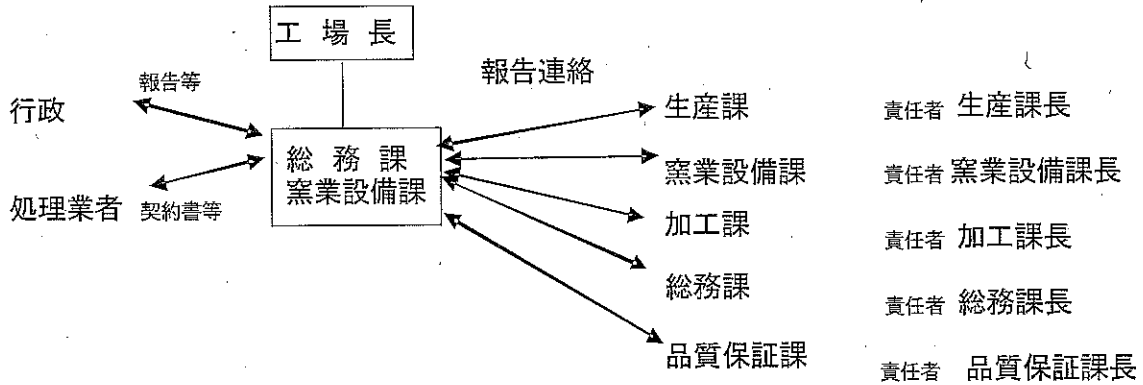
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日本山村硝子株式会社 播磨工場
事業場の所在地	兵庫県加古郡播磨町新島5番
計画期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	2114 窯業・土石 (ガラスびん製造)
②事業の規模	製造品出荷額 1,170,000万円 (平成25年実績)
③従業員数	203人 (平成26年4月時点)

<p>④産業廃棄物の一連の処理の工程</p>	<p>「原料」 ↓ 「溶解」 ↓ 「成型」 <①汚泥、<②ガラス屑、<③廃酸 ↓ 「検査」 <①ガラス屑、<②廃プラスチック ↓ 「製品」</p> <p>① 汚泥 収集運搬<委託：金澤産業>→肥料化<委託：中国有機>→肥料として販売</p> <p>② ガラス屑 収集運搬<委託：日進興業>→破碎<委託：日進興業>→路盤財として販売</p> <p>③ 廃酸 収集運搬<委託：大幸工業>→中和・脱水<大阪ペントナイト事業協同組合>→埋立処分</p> <p>④ 廃プラスチック 収集運搬<委託：金澤産業>→破碎<委託：金澤産業>→埋立処分</p>
------------------------	---

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



工場内分担

総務課

工場内の産業廃棄物処理計画の策定、処理、行政への報告
産業廃棄物処理業者の選定、契約、引渡し、適正処理の確認
工場内の他部署への関係法令等の教育、啓発、指導監督
産業廃棄物の減量計画立案

窯業設備課

工場内のマテリアルフローの把握

生産課 技術課 品質保証課 窯業設備課 総務課

課内の産業廃棄物の発生量削減 分別 場内保管場所への運搬

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（25年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑	廃プラ
	排出量	338ト	0ト	174ト	8ト
	産業廃棄物の種類	木屑			
	排出量	5ト			
	(これまでに実施した取組) ・一般ゴミ減量化のため外部からのゴミ持ち込み禁止 ・産業廃棄物再資源化・促進の為、現行分別区分の細分化 ・カレットと異物の分離作業 ・排水処理量の削減				

②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑	廃プラ
	排出量	300t	0t	160t	7t
	産業廃棄物の種類	木屑			
	排出量	4t			
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃油は油と水の分離を実施し、油については再資源化する。				
産業廃棄物の分別に関する事項					
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 種別ごとに分別排出実施				
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 現状分別方法維持及び細分化の徹底				

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項					
① 現状	【前年度（25年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑	廃プラ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t
	産業廃棄物の種類	木屑			
	排出量	0t			
	(これまでに実施した取組) 特になし				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑	廃プラ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t
	産業廃棄物の種類	木屑			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t			
	(今後実施する予定の取組) 特になし				
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項					
① 現状	【前年度25年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		0 t		t

②計画	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	2420 t	t
	(これまでに実施した取組) ・水処理設備により、水と汚泥の分離		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	2180 t	t	
(今後実施する予定の取組) ・水処理設備により、水と汚泥の分離			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
① 現状	【前年度（25年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥		ガラス屑		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t		0 t		
	(これまでに実施した取組) 特になし					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥		ガラス屑		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t		0 t		
	(今後実施する予定の取組) 特になし					
産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（25年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑	廃プラ	木屑
	全処理委託量	300 t	0 t	174 t	8 t	5 t

	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	18 t	8 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	300 t	0 t	156 t	0 t	5 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまで実施した取組) ・ 処理委託業者に適正処理依頼					

(第5面)

②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑	廃プラ	木屑
	全 処 理 委 託 量	250 t	0 t	160 t	7 t	4 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	30 t	0 t	16 t	7 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	220 t	0 t	154 t	0 t	4 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・ 処理委託業者に適正処理依頼						
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。